

輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

第2846号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

5/19

平成21年
(2009)
(火曜日)
週刊

貨物拡大の可能性も

長野地区で輸送実験

中部空港への共同輸送

中部空港調査会(川口文夫理事長)は、中部空港からの航空貨物輸出を増やすため、共同輸送実験を実施。このほど調査結果を発表した。長野の複数荷主が、車両一台に貨物を集約。輸送効率を高め、CO₂排出量を約半分に抑制した。中部空港発の航空貨物増加に向け、今年度も実験は続いている。

(村田 猛)



滋賀や北陸にまで広げることを検討

昨年十月から今年三月は、長野発の航空貨物のまで行われた「セントレ」九割が成田空港から輸出ア・トラック共同輸送」されている。社会実験、長野県の航空貨物を中部空港に集め、同空港からの輸出を三社が参加。一日一便の増やす取り組み。現状で四トン車が、松本市、岡

谷市、諏訪市の荷主から「実験開始直後の十一月は一日平均二・一トンの集荷。中央自動車道を通じて中部空港まで共同輸送した。」調査会は実験の成果に①輸送効率化の輸送コスト削減と環境負荷低減②中部空港の航空貨物拡大の可能性の発見——を挙げた。

実験前まで、荷主五社は別々のトラックを運行。一台に集約したことで積載効率、運行の効率が向上した。運行台数を減らすことで総コストを抑え、CO₂排出量も約半分に抑えられたという。

実験では貨物の輸出先は約九割がアジア向け。

長野以外での実験も検討中

「荷主が使いやすいように運行ルート改善を行った。実験参加者が協力体制をとり、利便性を高め続けたことで、貨物が回ってきたのでは」と同調査会の佐治隆夫次長。

現在、中部空港からは、港利用促進協議会が実験実施開始時にはなかったシカゴ便、アムステルダム便が運行中。輸送効率に加え、路線充実を視野にできる。調査会は「中部地域での共同輸送は、中部空港の航空貨物拡大につながる可能性を秘めている」と期待付けた。今年度は、中部国際空

港利用促進協議会が実験主体となり実験を継続。荷主は六社に増加。東海北陸道、新名神が開通した北陸、滋賀県西部地域の荷主を対象とした共同輸送実験も検討中。逆風に立たされている中部空港の発展へ、関係団体が結束して貨物獲得に動いている。